

初任者研修における示範授業が初任者に与える気づき に関する事例的研究

又野 陽子*

1. はじめに

筆者(注1)は、平成21年度に初任者研修の教科指導員として1年間初任者(以下A教諭)(注2)に教科指導を行う機会を得た。A教諭が提案した授業の継続的な観察と事前・事後指導、また筆者による示範授業を計画的に実施する中で、初任者が教科の専門性を身につけるプロセスを理解するための資料を記録として蓄積することができた。酒井・神保・久村(2011: 192)は、英語教師の専門性の養成と研修は、人間性・教職の適性の育成と英語力・英語教授力の育成という2つの軸をバランスよく向上させていく体制を構築していくことが必要であることを指摘している。本研究においては、英語を教えることという教科の指導に関する軸に焦点をあてて、英語教師の専門性が初任者研修を通してどのように修得されていくのかを検討することとする。1年間の教科研修は、初任者の提案授業とその事前・事後指導、教科指導員が授業を示範し指導する示範授業の2つに大別することができるが、本稿では示範授業を通じた初任者の学びや気づきの推移を検証することとする。筆者が継続的に観察した初任者自身の授業の変容や授業改善の道筋と示範授業が与えた気づきとの関係性に関しては稿を改めたい。

2. 研究の目的と意義

本研究は、示範授業を通して初任者がどのような学びを得たのかを分析し、示範授業が初任者に与えた気づきを検証することを目的とする。「示範授業など優れた教師の実践を直接に観察すること・・・(中略)・・・により初任者は自分に相応しい教授スタイルや技法を習得することができる」(丸山, 2006: 108)とされており、事前・事後指導とともに示範授業の観察による気づきも初任者の授業の変容や改善に反映されることが考えられる。他の教員の授業を参観して学ぶことができる内容としては、一般的に授業者の心構えや指導技術であることは予想が可能であるが、実際にどのような授業から初任者は何をどのような推移で学んでいくのかについて具体的なデータとして明らかにすることが本研究の意義として挙げられる。

* 山口市立平川中学校

3. 研究方法

A 教諭に長期的、継続的に示範授業を 1 年間提供し、その提示内容と指導あるいは講義内容を授業のねらいや指導上のポイントとともに記録として蓄積していった。そして、その示範授業の記録は、A 教諭の学びとの一致やずれを確認するために用いたり、A 教諭が自身の学びを振り返る際の参考資料として提示されたりした。1 年間の示範授業が A 教諭に与えた気づき（学び）の推移をとらえるために、(1) A 教諭が示範授業参観後に提出した授業観察メモ（レポート）の内容の分析、(2) 一対一の対面形式（Merriam, 1998/2004:104）によるインタビューという 2 つの方法を用いた。授業観察メモ（レポート）の分析と相補的にインタビューを行うことにより、A 教諭の感想や省察も引き出したいと考えた。

4. 結果

4. 1 示範授業の記録

筆者（教科指導員）は、A 教諭に対して週に 1 度（月曜日の 3 校時）、計 19 回中学 1 年生の英語の授業の示範授業を行った（平成 21 年 4 月 13 日～平成 22 年 2 月 15 日）。示範授業を通して A 教諭に提示した内容は表 1 のとおりである。近年、提示した後に言語知識の自動化を促すためのドリルを十分行うことなくコミュニケーション活動に移る授業展開が増えていることが金田（2000）において観察されている。A 教諭の授業を参観した際にも生徒の発話量や練習量を確保する必要性が見受けられたので、提示—練習—使用という言語の学習のサイクルを大切にしたい授業を心がけ、具体的な練習の技法も示範授業の中で示すようにした。

表 1 示範授業の記録

回	授業日	授業のねらい／指導上のポイント	提示内容（指導内容）
1	4/13	・あいさつ、自己紹介、教室英語を通して英語の音に慣れ親しませる。	絵生 り、夫 によ工 に業と 際て授 るとのこ す立ま 測するら 推いとす を用認中 容を確意 内一けをし習こ使 きや助解あ促字の 聞チを理くをやあ語 をス解の上話信で英 語エ理徒気発自切室 英シの生の元の大教 ・や徒・徒へが・
2	4/20	・力タリカ英の語とい自然なク英セしを聞き比べることい に音よナ音に（ア正しくンク音を日本語るにう方 さよる）にフに（せ）発ト発音できき本にこ ・アルビ）。のベツののみ独の文デし与えのみに方 ・とせア単語とそれの読続口模倣を行わせるるよ ・観。察とそれに続続口頭模倣を行わせるるよ	工 やす短時間 やせ持たせる 増させ入法 量をさと心導点 話をこの関留 話しる開意 の慣らせ味文法係 り口話点興方関 とな発利に法ののて ひと分のの字方導字い 人さ十語ド文示指文つ 一切にの一の提字とに 生徒多給英の文声と ・夫・に・た夫・る
3	5/11	・You are...の文とそを疑問文、それに対するよ 応答の形・意味と用法を疑理解し、表現で うにさせる。	効用の留意点、 の交換、転換 イスの方に ティイあり クのテ ラックの ブ類ラ指 ン種ント パター ・意義・ ・意・

4	5/25	<ul style="list-style-type: none"> ・Is this[that]...?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・単語絵カードにより建物についての語彙を導入し、学校案内で建物などについて尋ねたり応答したりする対話の内容を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パタンブラクティスの手順 ・パタンブラクティスの置換、転換 ・オーラル・イントロダクションのねらい ・範読から音読までの指導手順
5	6/8	<ul style="list-style-type: none"> ・Do you...?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パタンブラクティスの置換、転換 ・オーラル・イントロダクションの留意点、語彙の意味提示の方法と工夫 ・範読から音読までの指導手順
6	6/15	<ul style="list-style-type: none"> ・I do not... の文の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パタンブラクティスの置換、転換 ・範読から音読までの指導手順
7	6/29	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を引くような写真、実物、影絵を使うことによりモデル文が使われる場面を設定し、楽しく口頭練習ができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内での活動のゲーム化（教室で行っている活動にゲーム性を取り入れること） ・ゲームの意義、条件、留意点
8	7/6	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT とのティーム・ティーチングにより前時の復習（文法事項の確認）を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT とのティーム・ティーチングの進め方（前時の復習の例）
9	7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・“be 動詞＋形容詞”、“be 動詞＋not＋形容詞”の文の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・絵カードにより教科についての語彙を導入し、好きな教科について尋ねたり応答したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パタンブラクティスの置換、転換 ・「聞くこと」の指導手順 ・真偽テスト（true-false test）の使用法について ・範読から音読までの指導手順
10	9/8	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードにより朝食に関する語彙を導入し、朝食に何を食べるか尋ねたり応答したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定型会話（conventional conversation）の「約束」（conventions）の種類 ・範読から音読までの指導手順
11	9/14	<ul style="list-style-type: none"> ・役割と場面を与え、機能連鎖（McCarthy, 1991; Fujiwara, 2007; 又野, 2010 等を参照）の演習をさせることにより、隣接ペアや交換の構造を練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接ペア（adjacency pairs）や交換（exchange）の練習 ・ドラマ的手法の使用（ロール・プレイ）
12	9/28	<ul style="list-style-type: none"> ・How many...?の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・音楽や CD、持ち物など生徒がもつ経験・興味・関心を引き出し、ストーリーに関連づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パタンブラクティスの置換、拡張、転換 ・オーラル・インタラクションの特徴と留意点
13	10/5	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーを用いることにより曜日の言い方を導入し、練習する。 ・ALT と JTE の対話を通して曜日を尋ねる言い方と答え方、時間割の言い方を理解し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT との効果的なティーム・ティーチングのための留意点 ・ALT とのティーム・ティーチングの進め方（新教材導入の例）
14	10/19	<ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞の三人称単数現在形（肯定文）の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする（復習）。 ・プリントで書く活動を行い、「oral-aural で練習した語や文を定着させる」（佐野・米山・松沢, 1993:126）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の指導の際の留意点
15	10/26	<ul style="list-style-type: none"> ・三人称単数現在形（否定文）の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・導入の段階で、オーラル・インタラクションの方法を用い、意味のある言語活動の中で新教材を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パタンブラクティスの置換、転換 ・オーラル・インタラクションの特徴 ・オーラル・インタラクションから音読までの指導手順
16	12/7	<ul style="list-style-type: none"> ・ものがどこにあるかを尋ねたり、それに答えたりする位置を表す表現を導入した後、絵（例：ニュー）をさまざまな位置に移動させることをキュー（cue）とし置換の練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の聞き取りを行う際の留意点 ・パタンブラクティスの置換、キュー（cue）の出し方 ・定型会話（conventional conversation）の効用、留意点、位置づけ ・範読から音読までの指導手順

[illegible]

		練習量が多い。生徒を飽きさせない技。ある程度の速さで歌黒て。確認書題業	【変の多あフチミ動丁板宿学本】
3	5/11	授業前テの霧の困気づくり（板書、音楽）。生徒はやる。ことがすでにわ	【授業前テの霧の困気づくり】
4	5/25	フ板教語英単発リノズパオ順机単	【フ板教語英単発リノズパオ順机単】
5	6/8	生徒間こても音オ板使用例ヨ繰文多口ワ丸メ	【生徒間こても音オ板使用例ヨ繰文多口ワ丸メ】
6	6/15	フフ単テ語板一文	【フフ単テ語板一文】

		<p>された単語の発音は列全体の後クラスで入る。CD を使って練習する。インタラクシオン。</p> <p>練習する。インタラクシオン。</p>	<p>【練習】</p> <p>【学習過程】</p> <p>【インタラクシオン】</p>
7	6/29	<p>の練習が定着している。</p> <p>（Nice try!/Close!）</p> <p>のカードを黒板に貼って意識づけ。</p> <p>（絵）。班対抗で。何だとう？一つ必ず口お</p> <p>I don't know.と Really?を導入して</p>	<p>【ス】</p> <p>【グーキーワード】</p> <p>【容】</p> <p>【ツ】</p> <p>【語】</p> <p>【態】</p> <p>【の工夫】</p> <p>【し（必要事項の事）】</p>
8	7/6	<p>の練習が定着している。</p> <p>（Nice try!/Close!）</p> <p>のカードを黒板に貼って意識づけ。</p> <p>（絵）。班対抗で。何だとう？一つ必ず口お</p> <p>I don't know.と Really?を導入して</p>	<p>【さ】</p> <p>【語】</p> <p>【提示の方法】</p> <p>【動】</p> <p>【事前のデモンストレーション】</p>
9	7/13	<p>chain practice のメモ。良いものは範とする（2文で答える。練習する。インタラクシオン。）</p> <p>（絵）。班対抗で。何だとう？一つ必ず口お</p> <p>I don't know.と Really?を導入して</p>	<p>【のとりえ方（よさ）】</p> <p>【カード】</p> <p>【手順】</p> <p>【練習】</p>
10	9/8	<p>の練習が定着している。</p> <p>（Nice try!/Close!）</p> <p>のカードを黒板に貼って意識づけ。</p> <p>（絵）。班対抗で。何だとう？一つ必ず口お</p> <p>I don't know.と Really?を導入して</p>	<p>【提示の方法】</p> <p>【手順】</p> <p>【練習】</p> <p>【必要事項の事】</p>
11	9/14	<p>の練習が定着している。</p> <p>（Nice try!/Close!）</p> <p>のカードを黒板に貼って意識づけ。</p> <p>（絵）。班対抗で。何だとう？一つ必ず口お</p> <p>I don't know.と Really?を導入して</p>	<p>【練習】</p> <p>【学習過程】</p> <p>【インタラクシオン】</p>

[illegible]

		見てまわる。出た質問は全体に返す。課題が早く終わった生徒への指示。	
18	2/1	板書内容のメモ。記号についての説明のメモ。教室英語の文法事項のメモ。指名方法についてのメモ。教室英語の漢字を覚えていたコミュニケーション活動。生徒が出題した漢字を生かして最後に全員で再度繰り返し口頭練習。クチャーカードを示してオーラル・インタラクシオン。	【板書内容】 【文法事項】 【教室英語】 【コミュニケーション活動】 【生徒が書いた板書の生かし方】 【ミム・メモ】 【オーラル・インタラクシオン】
19	2/15	あいさつの声が元気が（表と裏）のメモ。フラッシュカードの発音練習の順序のメモ。文法事項のメモ。全体でもリピート。全体で留意点の確認。クチャーカードを示して基本練習の復習（練習の後CDとともにリズムにのって）。練習をしっかりとから教員と生徒の活動に入る。教員一人一人の活動（絵）。インタラクシオンの中で新出語句を適宜導入。登場人物の書き方（先生が絵はがきを持っていると書かれた内容の指示）。板書の内容の指導（画用紙に書かれたキーワードやキーワードの読み方）。音読の指導（音読の手順）。板書の文字の正しさを確認する。Your Turnを本時のまとめとして書く。美しく正しい板書の文字。	【元気のフラッシュカード】 【文法事項のある繰り返し（個一全体）】 【教員一人一人の活動（絵）】 【インタラクシオン】 【新出語句の適宜導入】 【登場人物の書き方（先生が絵はがきを持っていると書かれた内容の指示）】 【音読の指導（音読の手順）】 【板書の文字の正しさを確認する】 【Your Turnを本時のまとめとして書く】 【美しく正しい板書の文字】

学びのキーワードに目を通すと、大きく3つのカテゴリー（英語の指導技術、それを支える英語の授業の心構え、それらを支える教室運営）に分けることができるように思われる。そこで、表2の学びのキーワードを集約し3つのカテゴリーに分類して示すと以下の図1のようにまとめることができる。

英語の指導技術	英語の授業の心構え	教室運営
オーラル・イントロダクション／ インタラクシオン 教具（絵や具体物等の視覚教材） の使用 語彙の意味提示の方法 フラッシュカードの使い方 模倣暗唱活動（ミム・メモ） 文型練習（パタンプラクティス） 音読の指導手順 説明 フォニックス チャンツ タスク活動の設定 教室英語（教師の教室英語／生徒 の教室英語の促し方） 板書（内容／丁寧で正しい書写）	丁寧 はっきり テンポよく リズミカル ある程度の速さ 変化のある繰り返し ・全体での確認と個への戻し方 ・個一列一全体、教師一生徒 ・スピード 多量の練習 生徒の生活との関連性 スムーズな学習過程 ・音から文字へ ・学習の繋がり、見通し ・スモールステップ	雰囲気づくり 授業規律 本時の学習目標 本時の学びの確認 ほめる、よさの見取り 指示（簡潔、的確、明確、徹底） 指名方法 学習形態 机間指導の生かし方 生徒一人ひとりへの支援 生徒の理解度や作業状況の確認 活動を促すための動作の活用

図1 カテゴリー別に見た学びのキーワード

フラッシュカードを「テンポよく」「ある程度の速さ」でフラッシュさせ「多量の練習」をし、練習に臨む生徒の発音や態度の「よさの見取り」を行う等、指導技術と心構え、教室運営は相互に関連し合っているものである。図1を基本としつつ、表2に見られるようにその授業の回の内容によって、文法、リスニング、ロール・プレイ、宿題の確認、ALTとJTEのチーム・ティーチングや単語テスト実施時の気づき等が蓄積されていった。

4. 2. 2 インタビューから見える示範授業の学びの推移と評価

インタビューは、平成22年8月27日に実施したが、その方法は、A教諭が表1をもとに示範授業で提示されたことを振り返り、どのような気づきや思いを持ったかを第1回から順番に授業の回ごとに述べていき、その回答を筆者がノートに記録するという方法であった。質問のワーディングや順序は事前に決定されており、口頭での調査形式であった。表2にまとめたような報告された気づきや学び（示範授業の流れ、教師や生徒が使用した教室英語、教師の動き、板書内容、使用教具等のメモ）だけでなくその時々A教諭の思いも明らかにし、回を追うごとにどのように学びや思いが蓄積されていったのかを辿りたいと考えたためである。その結果（原文）をまとめたものが表3である。

表3 インタビューから見える示範授業から得た初任者の気づきや思いの推移

回	授業日	回答された気づきや思い
1	4/13	丁寧 <u>に</u> ゆっくり、わかりやすく簡潔に授業を進めることを学んだ。生徒一人ひとりが <u>確実に参加</u> できる。自分は中学2年生を対象に自己紹介したが、 <u>声を大きくして</u> 、教室英語をもっと使わなければ、と <u>気持ちを新たに</u> した。
2	4/20	フォニックスは自分が <u>一番勉強したいところ</u> だ。自分は「音をつけて」という点をやっていたいなかった。
3	5/11	Question.のキューで疑問文を作らせたり、 <u>パタンプラクティスの技法</u> を目のあたりにしてわかった。教師の発話は少なく <u>子どもの発話を多く</u> することを学んだ。 <u>これから取り入れていきたい</u> 。
4	5/25	<u>パタンプラクティスに</u> <u>自分も子どもみたいな気持ちで参加</u> していた。新出事項がそれほど多くない場合は、 <u>新出文法と語彙を同時にコンテキストの中で導入</u> できるということを学んだ。
5	6/8	<u>わかりやすい絵でシンプルに導入</u> する、しかし <u>日本語は使っていない</u> 、という点で <u>勉強になった</u> 。
6	6/15	この授業のような <u>練習や音読の手順や授業の流れ</u> であつたら子どもにわかりやすいと思った。自分の授業では <u>発話量</u> が少ない面があつたが、 <u>意識するようになった</u> 。
7	6/29	ゲームは自分もときどきやるが、 <u>ゲームの前の説明の仕方</u> の工夫や、このようなときはどのように言うかという <u>生徒の教室英語</u> を指導する必要性をこの授業から学んだ。
8	7/6	ALTとJTEの会話の一つひとつが生徒のモデルになっており、突如起こった生徒からの質問に対する答えも生徒には全部勉強になっている。そして、やはり <u>丁寧に指導</u> することの大切さを学んだ。今回の授業ではALTとのチーム・ティーチングにより前時

		の復習（文法事項の確認）が行われたが、自分は復習としてのコミュニケーション活動で ALT を活用することが多い。 <u>ALT の多様な活用方法を学んだ。</u>
9	7/13	<u>導入の際の絵がわかりやすかった。ストーリーと関連づけながら語彙を導入する方法を学んだ。</u>
10	9/8	<u>生徒自身の生活と密着している身近なことを取り上げることの大切さを学んだ。ストーリーと関連づけながら語彙を導入する方法を学んだ。</u>
11	9/14	劇化が <u>楽しそう</u> だった。 <u>自然な会話の流れやパターンを身につけさせていくことができる</u> と思った。
12	9/28	自分が本当に持っている物に関して <u>How many...?</u> の文や応答の文を使っていた。きちんと <u>パターンで型を導入し、最初にたくさん練習</u> していたことが <u>印象に残った</u> 。
13	10/5	板書や具体物（カレンダー）を用いることで曜日が視覚的にわかる <u>と思った</u> 。最初の <u>イントロダクションが、シンプル</u> でありながら今日の授業が生徒にはよくわかる内容であったと思う。
14	10/19	プリントで書く作業を行った際、 <u>生徒一人ずつきちんと丁寧に</u> 見ておられたのが <u>すごいと思った</u> 。そこまでやったら子どももわかる。子どもも丁寧に文字を書いている。
15	10/26	授業の <u>展開が自然な流れだ</u> と思った。 <u>ストーリーの内容を理解させるのに国旗を使ったり表にまとめたりして入りやすいしわかりやすい。</u>
16	12/7	<u>子どもの発話が多くなるように</u> されていた。 <u>テンポよく、生徒も口から自然に英語が出て</u> いる。 <u>パタンプラクティスのキューの出し方</u> には口頭によるものと実物、絵などを用いる方法があることを知った。
17	1/18	<u>絵を使ったり、生徒の集中力をたやさない工夫</u> がされていた。
18	2/1	漢字を用いたコミュニケーション活動は <u>見えていて楽しかった</u> 。 <u>action (ここではクイズ) を行う中でコミュニケーションに必要な表現も用いるように</u> 促されていたが、教科書の <u>Let's Chat</u> のセクションにもつながるものだったと思った。
19	2/15	<u>子どもに答えを出させることが大切なのだと</u> 知った。そのための <u>雰囲気づくりも大切だ</u> と思った。英語の手紙の書き方の <u>正しい基本を教えること</u> の大切さを知った。それが文化の学習にもつながると思う。

_____ : 授業の心構えに関する学び

_____ : 指導技術に関する学び

□ : A 教諭の思い

また、文章表現による振り返り（表 3）以外に、示範授業で提示した事項（表 1）が A 教諭にとってどの程度役に立ったのか、あるいは役に立たなかったのかを 4 件法で評価してもらい（役に立ったものに 4、まあまあ役に立ったものに 3、あまり役に立たなかったものに 2、全く役に立たなかったものに 1）、その理由も尋ねた。その結果、評価はすべての項目で 4（役に立った）であった。その理由としては、「英語を教える以前の、丁寧にスモールステップで教えるという教科をこえて大切にしなければならないことを学ぶことができたから。そして、先生がすごく研究されていて、自分も英語の勉強を本当にしっかりすることの大切さも学べた。具体的には、教材や指導法に関する知識や背景、長い目でその教材を見ていくことの大切さなどである。また、一つひとつの手立てや行動に意味

があるということがよくわかったし、日頃の授業中での技術面、やり方を一番学んで、役に立った」という記述を得た。

5. 考察

他の教員の授業を参観して学ぶことができる内容は、一般的に授業者の心構えや指導技術等が考えられるが、今回の示範授業の参観から具体的に何を学んだか、今後さらに必要な支援は何か等を A 教諭のレポートや実際のコメントから把握することを試みたい。

まず、示範授業を通して提示することが計画された内容（表 1 の提示内容）と A 教諭の学びとの一致やずれについて考えてみたい。11 回目の示範授業において、役割と場面が与えられドラマ的手法が用いられていることは観察されていた。しかし、隣接ペアや交換といった会話の構造を視野に入れてロール・プレイが行われていたことへの気づきは促されていなかったため、この点については事後指導の際に説明を加えた。その他の回では、「何度もリピート」「たくさん練習する」等、A 教諭自身の表現で記述されているものの、「十分な口慣らし」等の教科指導員の授業の意図は各回で伝わっており、詳細なメモがとられていた。

示範授業の初回から、教室英語や板書内容等のメモ、声の調子や授業のテンポ、教具の使用方法、指示の出し方、フォニックスやパンプラクティス、音読、オーラル・イントロダクション（インタラクション）等の記録が積み上げられていった。丁寧に正しく文字を書くことの気づきや生徒の理解度の確認等、その回ごとに学びを積み上げていったことがわかる。

表 3 及び 4 件法による評価とその理由の記述から、手順をふんで丁寧に指導すること、生徒の集中力を持続させテンポよく授業を進めること、生徒の発話量を多くするための手立てをとること、自然な会話の流れを大切にしたい授業を組み立てること等、教師が英語の授業で大切にしたい心構えについての気づきが促されていったことがうかがえる。

また、フォニックス、パンプラクティスの技法や内容中心のオーラル・イントロダクションなど英語の授業特有の指導技術も示範授業を通して学んでいったことがうかがえる。しかし、「知った」「印象に残った」「これから取り入れていきたい」「自分も子どもみたいな気持ちで参加していた」（表 3 中のコメント）というところでとどまっており、示範授業で得た気づきを初任者自身の授業に反映させて適切に使用できるためのトレーニングや支援が必要である。

4 件法による評価とその理由の記述からは、示範授業を通して英語科の指導技術だけでなく、教科をこえて大切にしたいことが学べたことがうかがえる。それと同時に、良い授業をつくるためには理論的な礎が必要であり、研究を常に継続しなければならないという指導者の授業に対する姿勢も伝わったように思われる。

6. おわりに（まとめと今後の課題）

1 年間にわたり、自らの授業をモデルとして示し指導する示範授業を実施し、

初任者の学びを示範授業の回ごとに辿った。示範授業から得られた初任者の気づき（学び）の分析結果に基づいて、初任者は他の教師の実践を直接に観察することにより何をどのような推移で学んでいくのかをデータとして明らかにした。初回から授業者（教科指導員）の指導上のポイントを十分理解して、英語の指導技術、心構え、教室運営についての学びを深めていったことがうかがえたが、どのような意図や理論的な意味があってその活動を行っているのかといった理論的根拠についてはあらためて説明を加えていく必要があった。しかし、そうした事後指導を通して、指導技術のみでなく、理論的礎の必要性や授業に対する姿勢も学び取っていったことが A 教諭の記述から明らかになった。

本稿では、1 年間の教科研修のうち、示範授業に焦点をあてて初任者の学びや気づきの推移を分析したが、教科研修では初任者の提案授業とその事前・事後指導も実施してきた。筆者が継続的に観察した初任者自身の授業の変容や授業改善の道筋、初任者自身の授業と示範授業が与えた気づきとの関係性について今後分析を継続することにより、英語教師の専門性が初任者研修を通して修得されていくプロセスを総合的に明らかにしていきたい。また、本稿は一人の教科指導員が提示した授業からの学びに関して一人の初任者の事例を取り上げたものにすぎないため、今後同様の機会があれば今回とは異なる初任者の事例を詳細に分析してデータを蓄積し、今回のケースと比較することによって示範授業が初任者に与える気づきに関する具体的普遍性を探っていきたい。

注

- 1 博士（教育学）。教科指導員として今回の初任者研修に携わっていた時、教職 21 年目。
- 2 文学部英米文学科卒業。採用前に、中学校で 5 年 5 か月（特別支援学級の英語の授業を教えた 1 年間を含む）、小学校で 2 年 4 か月英語及び外国語活動の授業に携わっていたが、今回のような形で指導助言を受けながら研修を行った経験はない。

参考文献

- Fujiwara, Y. (2007). *A study on the acquisition of English function-chains: A focus on Japanese EFL learners*. Hiroshima: Keisuisha.
- McCarthy, M. (1991). *Discourse analysis for language teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Merriam, S. B. (2004). 『質的調査法入門—教育における調査法とケース・スタディー』（堀薫夫・久保真人・成島美弥訳）. 京都：ミネルヴァ書房.（原典 1998 年発行）.
- 金田道和. (2000). 「C. C. Fries の理論再訪(1)」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.30, 85-93.
- 酒井志延・神保尚武・久村研. (2011). 「英語教師の成長—求められる専門性—」石田雅近・神保尚武・久村研・酒井志延編. 『英語教育学大系第 7 巻 英語教師の成長—求められる専門性』（pp. 189-227）. 東京：大修館書店.
- 佐野正之・米山朝二・松沢伸二. (1993). 『基礎能力をつける英語指導法—言語

活動を中心に』東京：大修館書店.

又野陽子. (2010). 「言語の使用場面と言語の働きを重視した英語の授業に必要な視点」『英語教育学研究』広島大学英语教育学会, 創刊号, 37-44.

丸山義王. (2006). 「初任者への指導助言の効果的な運用」八尾坂修（編）『教職研修総合特集（読本シリーズ No. 169）指導教員のための初任者研修の進め方』（pp.107-111）. 東京：教育開発研究所.

【付記】

本研究にあたり、初任者の先生にはインタビューに応じていただくとともに本稿にまとめることに了解をいただきました。私自身も教師教育についての考察を深める機会となりました。記して謝意を表します。